

編集部【e-mail】cs-edit@wlpn.or.jp【TEL】03-5341-6957 購読課【e-mail】cs-read@wlpn.or.jp【TEL】03-5341-6958【FAX】03-5341-6960

定期購読料・1部(税込、前払い)

紙代	送料	合計
● 3か月… 2,700円+	480円=	3,180円
● 6か月… 5,400円+	960円=	6,360円
● 12か月… 10,800円+	1,920円=	12,720円

海外・1部12か月(非課税、送・手数料金)  
船便(各国共通) 16,464円  
航空便(地域別) 18,960円~22,992円  
印刷コード00150-8-101512いのちのことば社ジャーナル出版部事務局  
※お申し込み・お問い合わせは上記購読課まで。  
※便利な口座自動引き落としもご利用下さい。  
いのちのことば社クリスチャン新聞  
〒164-0001 東京都中野区中野 2-1-5

◆THE CHRISTIAN◆  
12/8  
2013  
クリスチャン新聞  
http://jpnews.org  
1部 225円(税込)

**秘密保護法案へ各教団声明 戦前の弾圧繰り返す危惧…2**  
東京地裁「来臨キリスト」疑惑を認定…2  
北朝鮮で聖書所持等で80人処刑…3  
WCC反核兵器で一致、脱原発で異論…3  
賛美大好き幼稚園職員CDデビュー…8



Solaチャリティ陸上  
スポーツで生きる勇気励ます  
写真提供=日本CGNTV、米内里江子

JEA宣教フォーラム

福島に聴き、応える

「宣教」と「支援」の神学を越え

地震、津波、東京電力福島第一原発の事故は福島県に甚大な被害と不安をたらした。福島第一原発から核燃料取り出しが始まった11月18日、福島県の声を聴き、うめきを共有し考え、祈ることを趣旨に日本福音同盟(JEA) 宣教フォーラム福島が、郡山市のビッグパレットふくしまで開かれた。福島県キリスト教連絡会(FCC)木田恵嗣委員長、JEA宣教員会(末松隆太郎委員長)が共催し、19日まで開いた。【高橋良知】

JEA宣教フォーラム 成氏(同盟基督・世田谷)は、09年に札幌で開催した第5回日本伝道会議(JCEC)から16年に神戸で開くJCEC6に向けて各地で開かれてきた。東日本震災後は、秋田(11年)、仙台(12年)と、東北での開催が続いた。今回は「チーム・プロジェクト」をテーマにした。神が創造した自然エネルギーを「再生する宣教」に沿った講演とともに、牧師や信徒、放射能測定など各種支援プロジェクトの代表、地域支援ネットワークの代表など様々な立場からの報告、証し、祈りの時間が盛り込まれた。開会礼拝では、安藤能

の不信感も募る。街角に設置された行政の線量計よりの、手持ちの線量計が高いことがあり、だが、教団教派を超えたネットワークができたことが希望になっていく。バラバラではなく一緒に声を上げることが大事。教会が入り込むことができなかつた地域の内部に入ることで、今後の福島の宣教をどうするか大きなポイント。違いを尊重する成熟した友情とともに、持続的な宣教の工夫が必要だ。今は非常事態で、今以上に突っ走っている。いつまで続くか。フォーラムで話しを進めていきたいと呼びかけた。

去る11月9日(土)東京・府中市陸上競技場において、第1回チャリティ陸上を行った。呼びかけは福島県いわき市に活動拠点を持つクリスチャン・アスリートの大内恵史也氏。主催は東北の子どもたちの学習支援に取り組む「SOLA」を主催する教会に人を呼び集めるための「手段」として、有名スポーツ選手を二広告塔にしてしまおうのではなく、この世界においてスポーツの持つ意味、アスリートの使命について問うことから始めたこと

だが、今回の大会に合わせた。大会への参加費から生まれる収益が、震災で競技環境や機会を失った東北の競技者を励ます練習会や大会にもつなげるよう願っている。

陸上競技大会参加は経験豊富でも、主催側と模範から始めること。小学生から一般まで、補助員や応援に来てくださった方々を含めると60〜70人ほどの規模となった。公立中学校やスポーツ専門学校の陸上部、一

橋大学陸上部、五輪選手を含むトップアスリートたち、整体師らの無償の協力をいただき、午前中から2時までは記録会を、その後は各専門競技別の練習会を行った。練習会ではレベルの高い指導が参加者に行き届き大好評。一人ひとりが大切にされ、生きる勇気と励ましを受けられる場となるように、今後も試行錯誤しながら、この大会を育てていきたいと願っている。【レポート・米内里江子】

が、今回の大会に合わせた。大会への参加費から生まれる収益が、震災で競技環境や機会を失った東北の競技者を励ます練習会や大会にもつなげるよう願っている。

陸上競技大会参加は経験豊富でも、主催側と模範から始めること。小学生から一般まで、補助員や応援に来てくださった方々を含めると60〜70人ほどの規模となった。公立中学校やスポーツ専門学校の陸上部、一

橋大学陸上部、五輪選手を含むトップアスリートたち、整体師らの無償の協力をいただき、午前中から2時までは記録会を、その後は各専門競技別の練習会を行った。練習会ではレベルの高い指導が参加者に行き届き大好評。一人ひとりが大切にされ、生きる勇気と励ましを受けられる場となるように、今後も試行錯誤しながら、この大会を育てていきたいと願っている。【レポート・米内里江子】



福島のために祈る参加者たち

ることを信じる。よみがえられたキリストのからだに傷が残っていたように、傷ついた福島、東北もまた完成する神の国において、義とよきと愛の大事業の印となるはずだ」と励ました。最後に「イエスが二人ずつ宣教に遣わした。この地で果たす責任はとも一人で担いきれない。福島の教会とともに歩む教会になりたい」と語った。

閉会礼拝では、末松隆太郎氏(JEA・栄聖書教会牧師)が「隣人は誰か」と題してルカ10・29〜37からメッセージをした。サムリア人が顔死の人を見て感じた「かわいそう」という言葉は「新約、旧約を通じて、神またはイエス自身が、本来つくられた神のかたちから遠い状態の人間を見るときに使用される」と指摘した。「まず自分自身がいやしを受けなくてはならない。それがすべての働き始まり。宣教と支援。それは人間を向と見るか。イエス様は体と心と霊のように別々に見ない。私たちのために、とりなしている聖霊のうめきは『かわいそう』という思いに通じます」と話した。

主催集会の動画をJEAホームページから視聴できる。http://www.jeanet.org/bind/index.html。1月26日号より本紙で報告を連載。